

## 7. 水源地域動態

## 7. 水源地域動態

### 7.1 水源地域の概況

#### 7.1.1 水源地域の概要

九頭竜川流域は、福井県嶺北地方の7市4町（大野市、福井市、あわら市、坂井市、越前市、勝山市、鯖江市、越前町、南越前町、永平寺町、池田町）を中心に、岐阜県郡上市（石徹白地区）を含めた2県8市4町にまたがっている。

また、流域内では、数多い遺跡や古墳、文化財など、古代からの人々の生活の跡が、いろいろな地区で見られ、その生活の様子からは、九頭竜川本川、日野川、足羽川の三大河川がもたらす恵み多い自然の中で、大和や京都の影響を受けながら風土に根ざした文化を育み、歴史を刻んできた姿を窺い知ることができる。

現在は、福井平野を中心に武生盆地や大野盆地などで市街地の拡大伸展が見られる。人口は、福井平野を中心とした西側の市町村で増加傾向にあり、東側の山間部市町村では減少傾向が見られる。西側市町村の核は、商業・サービス業を中心とする福井市、工業や商業を中心とする鯖江市と越前市である。また、農業は福井平野を中心として展開されており、東側山間部市町村では若干の工業の展開が見られるものの、林業の不振もあって過疎化が進みつつある。

大野市域の80%を占める森林がもたらす「水」は、名水百選に選定されている御清水に代表されるように、本市の大きな魅力となっている。清らかで豊かな水は、農業をはじめ素晴らしい食文化を育んできたほか、地場産業である繊維工業の振興にも大きな役割を果たしてきた。

一方、市街地は戦国時代からの町割りが色濃く残り、城下町の風情が味わえる歴史と文化に満ちた空間となっている。今日まで脈々と受け継がれてきた幕末の大野藩に代表される進取の精神や、シンボルの亀山、越前大野城、寺町などは市民の誇りである。

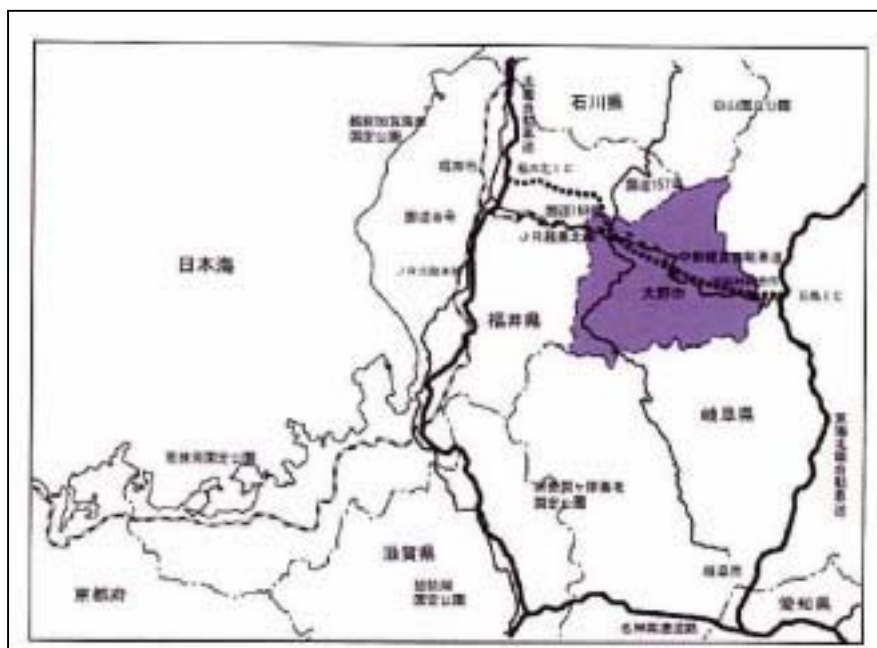


図 7.1-1 水源地域の概要図

### 7.1.2 ダムの立地条件

九頭竜ダムの水源地域は、福井県大野市に位置している。平成17年11月7日に大野市と和泉村が合併し、新生「大野市」が誕生した。同市の人口は37,843人（平成17年国勢調査）で、面積は872.30km<sup>2</sup>と福井県最大であり、その87%を森林が占めている。

大野市は、福井県の東端に位置し、東と南は岐阜県、西は福井市と池田町、北は勝山市と石川県に接している。

県都福井市から九頭竜ダムまでの距離は約60kmであり、JR越美北線や国道158号線を利用し約1時間30分の距離にある。また、大野市の市街地、岐阜県郡上市からも車で約50分の距離にあり、東海北陸自動車道等を利用し、中京圏からも日帰り圏の距離にある。

水源地域を通る国道158号は、福井県と岐阜県を結ぶ北陸、中部経済圏の産業、文化の交流を図る幹線道路で地域の振興に欠かすことのできない道路である。また、JR越美北線（九頭竜線）が国道158号にほぼ平行して走り、福井駅でJR北陸本線と接続している。

現在建設中の中部縦貫自動車道（一部開通）は、水源地域を縦断する計画となっており、完成すれば福井県の東玄関口となる奥越前にとって地域活性化の強力な起爆剤になると期待されている。

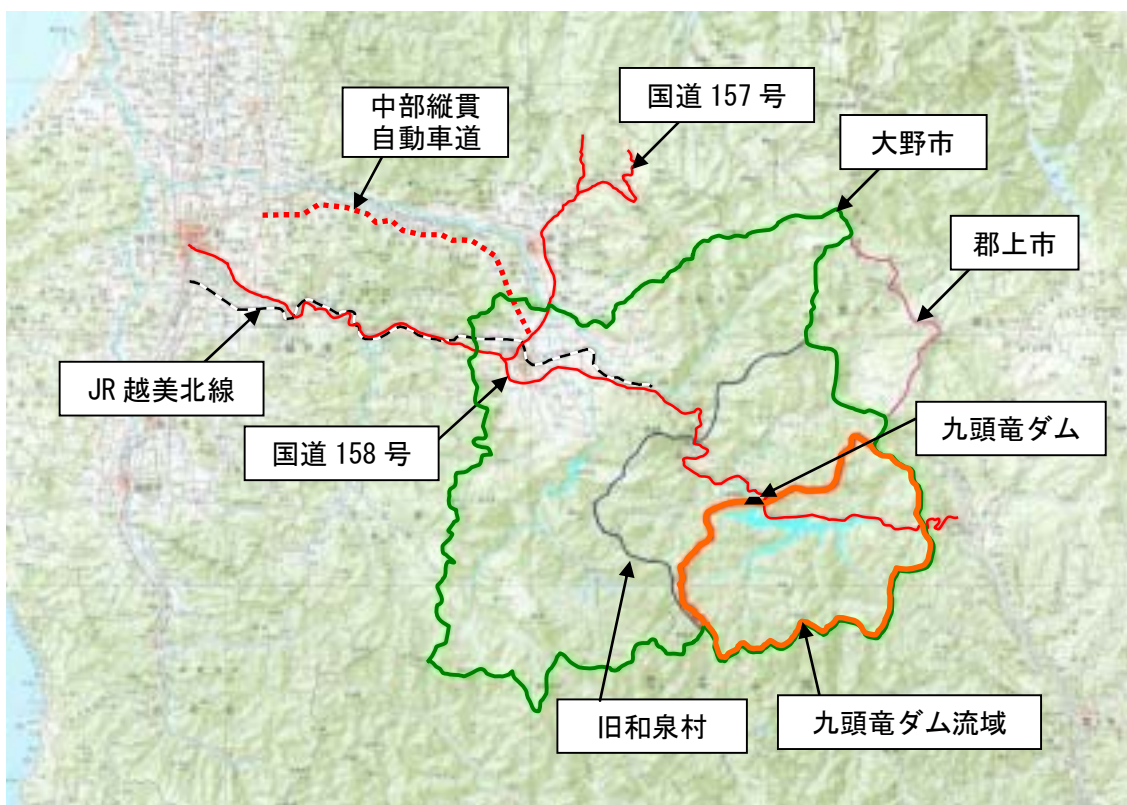


図 7.1-2 ダムの立地条件

出典：資料 7-1



図 7.1-3 中部縦貫自動車道（大野市周辺）の概要

出典：資料 7-1

東京から								
飛行機で	羽田	小松	(連絡バス)	福井	(JR越美北線)	大野	約3時間15分	
JRで	東京	(新幹線)	米原	(北陸線特急)	福井	(JR越美北線)	大野	約4時間35分
高速バスで	東京八重洲南口			福井	(JR越美北線)	大野	約9時間	
大阪から								
JRで	大阪/京都	(湖西線特急)		福井	(JR越美北線)	大野	約2時間50分	
自動車	大阪	(名神高速)	米原JCT	(北陸自動車道)	福井IC	(国道158号)	大野	約3時間30分
高速バスで	大阪市阪急梅田三番街/バスターミナル			福井	(JR越美北線)	大野	約3時間30分	
名古屋から								
自動車	一宮	(東海北陸自動車道)		白鳥IC	(国道158号)	大野	約2時間	
	名古屋	(名神高速)	米原JCT	(北陸自動車道)	福井IC	(国道158号)	大野	約3時間10分
JRで	名古屋	(北陸線特急)		福井	(JR越美北線)	大野	約3時間05分	
高速バスで	名鉄バスセンター/JR名古屋駅			福井	(JR越美北線)	大野	約3時間30分	

図 7.1-4 交通アクセス（大野市まで）

出典：資料 7-1

## 7.2 ダム事業と地域社会情勢の変遷

### (1) 水源地域の人口・世帯数の推移

九頭竜ダムの水源地域である大野市和泉地区(旧和泉村)における人口及び世帯数は、昭和40年～昭和45年にかけて急激に減少したのち、九頭竜ダム管理開始(昭和43年)以降も減少し続けており過疎化が進行している。

表 7.2-1 大野市和泉地区(旧和泉村)における人口・世帯数の推移

旧和泉村	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
人口(人)	5,723	2,453	1,878	1,478	1,192	846	824	752	669
世帯数(世帯)	1,147	690	569	489	415	295	295	284	253

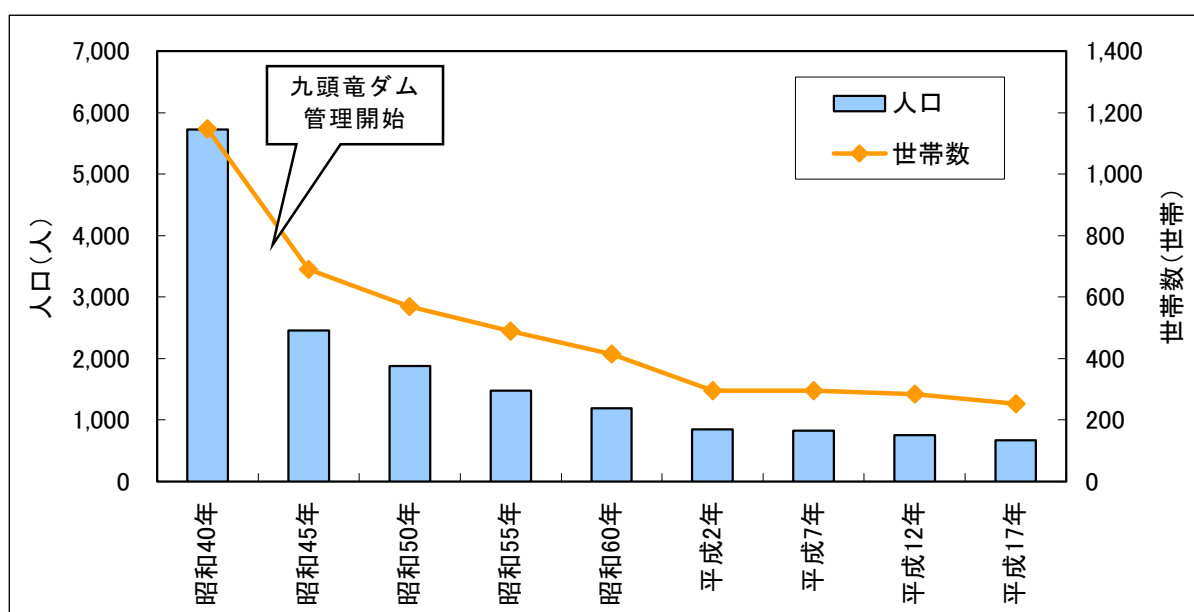


図 7.2-1 大野市和泉地区(旧和泉村)における人口・世帯数の経年変化

出典：資料 7-2

### (2) 産業別就業者人口

大野市和泉地区(旧和泉村)における事業所数の経年変化を図 7.2-2 に、産業別就業者人口の経年変化を図 7.2-3 に示す。

大野市和泉地区(旧和泉村)においては、事業所数、就業者人口ともに減少している。また、産業別就業者人口についてみると、第一次産業の就業者人口が大幅に減少したため、相対的に第三次産業の就業者人口割合が増加している。

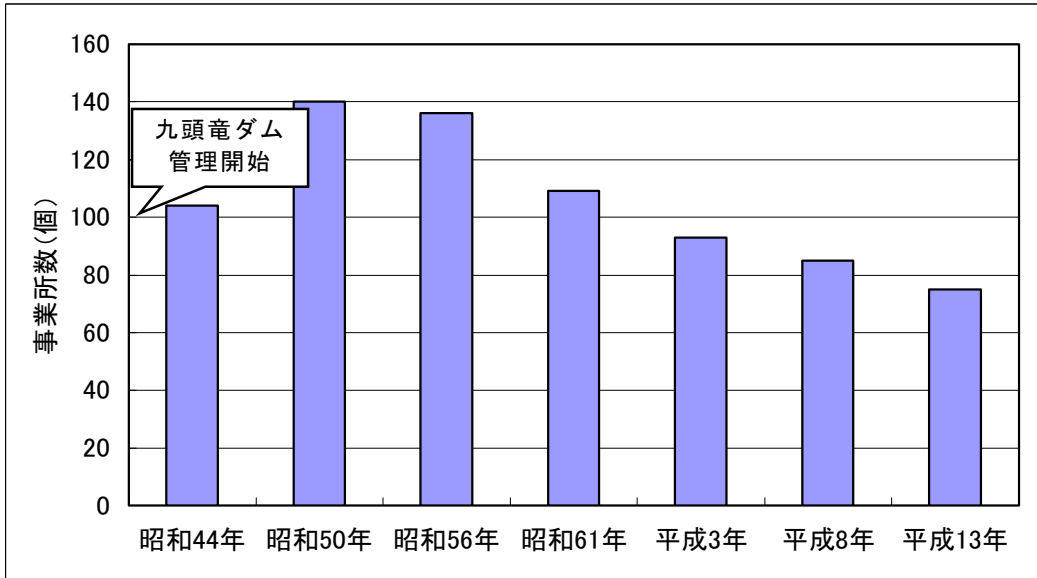


図 7.2-2 大野市和泉地区(旧和泉村)における事業所数の経年変化

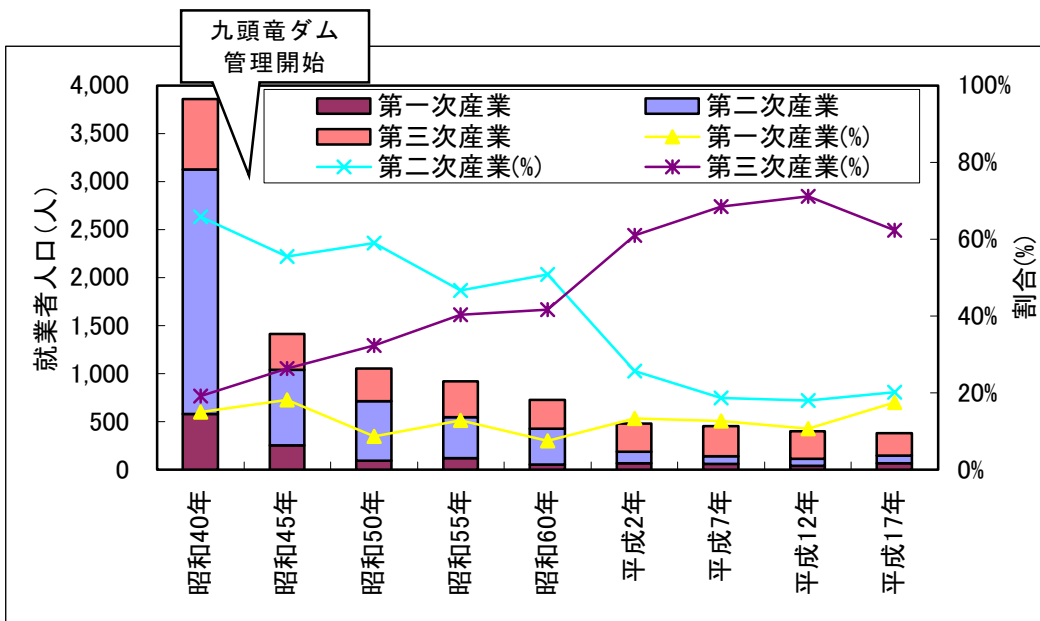


図 7.2-3 大野市和泉地区(旧和泉村)における産業別就業者人口の経年変化

出典：資料 7-3, 4



### (3) 観光イベント等の開催

水源地域の大野市和泉地区(旧和泉村)では、下記のような観光イベントが開催されている。

表 7.2-2 大野市和泉地区(旧和泉村)における開催イベント

月	行事名	会場	内容
5	山開き(荒島岳)	荒島岳	安全祈願祭、記念登山
	九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地	ステージイベント、新緑市場、フリーマーケット、子供の広場、トロッコ列車等
10	九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地	ステージイベント、紅葉市場、体験広場、紅葉杯争奪ゲートボール大会等

出典：資料 7-1, 5

#### ◆山開き(荒島岳)(5月)

荒島岳山開き(芽吹祭)は5月上旬日曜日に開催される。

荒島岳は、奥越高原県立自然公園のほぼ中央にそびえ、その秀麗な山容から「大野富士」とも呼ばれる奥越の名峰で、福井県内では唯一の「日本百名山」に選ばれている。



#### ◆九頭竜新緑まつり(5月)

(九頭竜まつり実行委員会)

ステージイベントの他、竹とんぼ遊び、化石発掘体験などの開催されており、中竜鉦山の坑内で実際に使用されていたトロッコ列車の乗車体験もある。また、山菜やてんぷらなどの春の旬の味の販売も行っている。



#### ◆九頭竜紅葉まつり(10月)

(九頭竜まつり実行委員会)

ステージイベントでの郷土芸能披露や木と触れ合う体験コーナー、大野市で採れた新鮮な野菜や特産品、秋の味覚、まいたけ天ぷらやまいたけ弁当、岩魚焼きなど盛りだくさんの市場。特産の穴馬かぶら、まいたけなどの即売会も開催している。



## 7.3 ダムと地域の関わりに関する評価

### 7.3.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

九頭竜ダムは、大野市和泉地区(旧和泉村)に立地するダムで、周辺は福井県内でも有数の林業地帯でもある。都市域との広域的な交流は比較的利便性が良く、大野市街との連携・ネットワークにより、その活用が大いに見込める条件にある。

#### (1) 九頭竜ダム水源地域ビジョン

「九頭竜ダム水源地域ビジョン」は、九頭竜ダム・九頭竜湖及びそれを取り巻く豊かな自然を保全し、活かしながら進める流域圏活性化のためのビジョンであり、平成17年11月に策定した。水源地域ビジョンの基本方針を図7.3-1に、施策の実施イメージを図7.3-2に示す。

#### —水辺の活用—

- 九頭竜湖と湖に流れ込む支川、石徹白川、大納川など、大野市和泉地域を流れる美しい清流とその水辺空間を保全し、水にふれあえる場としての利用を図ります。
- 大野市和泉地域を象徴する広大なダム湖である九頭竜湖をカヌー体験やフィッシング体験などの場として活用します。
- 石徹白川、大納川、九頭竜川の親水エリア、九頭竜湖周の水辺の一体的な魅力を向上し、水辺スポットへの誘導を図ります。

#### —森林資源の保全と活用—

- 流域の森林は、九頭竜川の水を育む水源林として重要な役割を果たしていますが、近年の過疎・高齢化の進行や林業経営をとりまく社会状況の変化により山林の荒廃が懸念されており、その適正な状態の保全を図ります。
- 森林の恵みを体感し、森からもたらされる森林資源を活用した体験型活動拠点づくりを進めます。

#### —ふれあいと交流—

- 山村の歴史を受け継いできた人々の心、大野市を愛し、自然・文化を楽しむ心がふれあう機会をさらに広げていきます。
- 大野市和泉地域の自然・文化に魅了されている地域外の和泉ファンと地域住民とのイベントにおける交流や情報の交流をさらに進めます。

図 7.3-1 九頭竜ダム水源地域ビジョンの基本方針

出典：資料 7-6



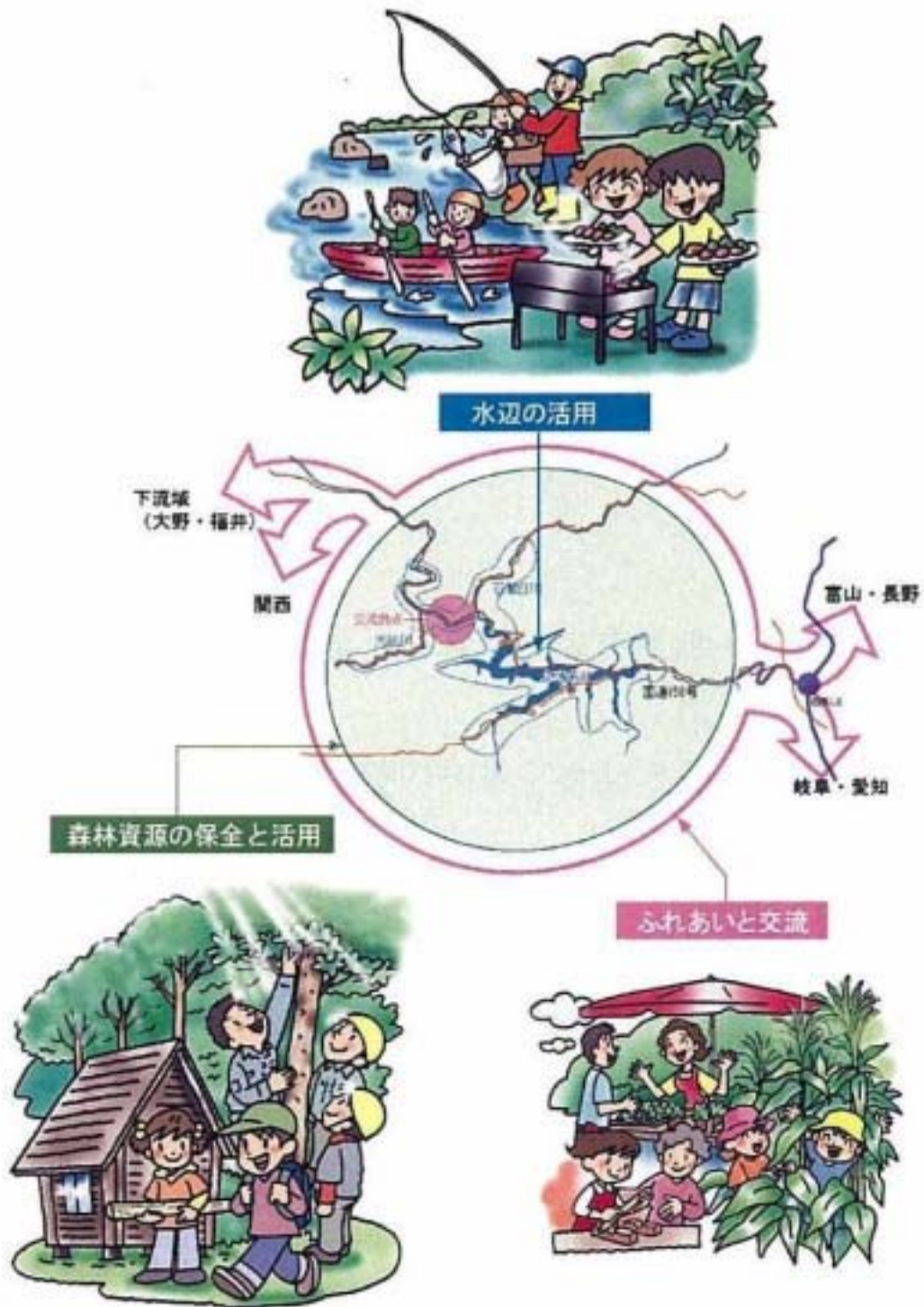


図 7.3-2 施策の実施イメージ

出典：資料 7-6

## (2) 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの推進

平成 17 年 11 月の旧大野市と旧和泉村の合併に伴い、真名川ダム・九頭竜ダムの水源地域ビジョンを一体的に推進するため、平成 18 年 2 月に「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会」を設立した。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの施策の実施イメージおよび施策の体系は、図 7.3-3 および図 7.3-4 に示すとおりである。



図 7.3-3 施策の実施イメージ

出典：資料 7-6



図 7.3-4 施策の体系

出典：資料 7-6



また、真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会の下部組織として、地域の活動団体等で構成する「森林」、「水」、「交流」の3部会を設立した。

ビジョンの推進組織の構成と多様な活動主体との協働関係を図 7.3-5 に示す。

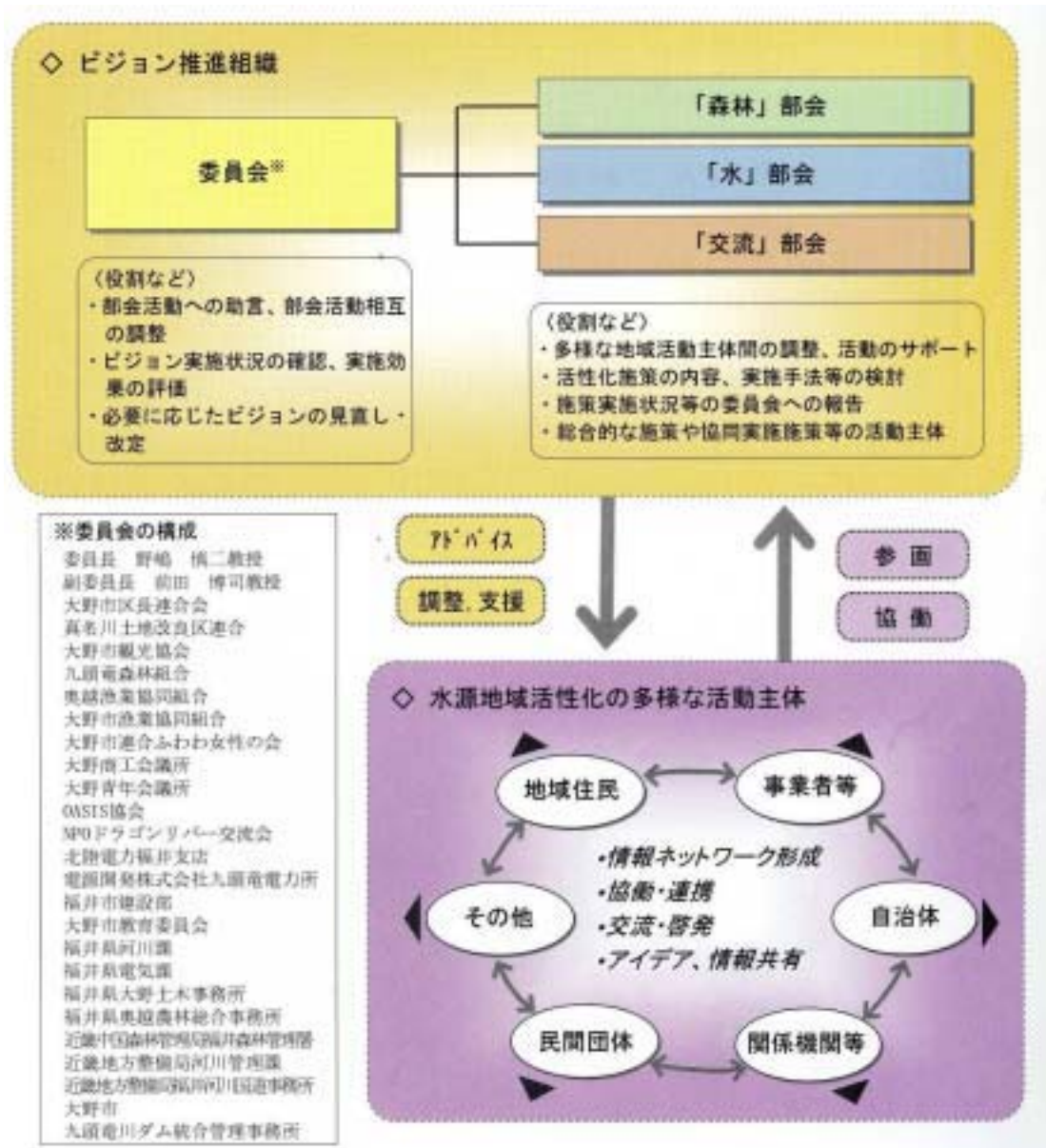


図 7.3-5 ビジョン推進組織と多様な活動主体との協働

出典：資料 7-6

ビジョンを推進するためには、「市民参加の拡大」が重要な柱となる。ビジョンの施策に示したような活動には、誰でも参加しやすい自由闊達な討論の場が保証されていることや、活動に参加した市民が情報を共有できる場をつくる必要がある。そこで、ビジョン推進においても以下のルールで運営される市民参加の促進を図っている。

### 「3つの原則」

- 1) 自由な発言
- 2) 徹底した討論
- 3) 合意の形成

### 「7つのルール」

- 1) 参加者は個人の立場とし、その見解は所属団体の公式見解としない
- 2) 特定個人・団体の批判等を行わない
- 3) 議論はフェアプレイの精神で行う
- 4) 議論を進めるに当たっては、実証的なデータを尊重する
- 5) 問題の所在を明確にした上で合意を目指す
- 6) 現在係争中の問題は、客観的な立場で事例として扱う
- 7) プログラムづくりに当たっては、長期的に取り扱うものおよび短期的に取り扱うものを区分し、実現可能な提言を目指す

(原典：みずとみどり研究会)

図 7.3-6 市民参加促進の原則とルール

出典：資料 7-6

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンに係る施策として、「九頭竜川 水・交流サミット」の開催、「森と湖に親しむつどい」の開催、植樹会等を実施している。また、これらの内容については、ホームページで公開するとともに、希望者にはメールマガジン『森・水・交流通信』として配信している。



**九頭竜川「水・交流サミット」開催のご案内**

九頭竜川は埼玉県と福井県の県境を水源とし、九頭竜林道を経て大野市、福井市を経て日本海に注ぐ福井県を代表する河川です。  
 この夏、この九頭竜川を軸に、流域の連携・協働の促進や関係者の交流を図ることを目的とした「九頭竜川「水・交流サミット」」を、「平成19年度森林と湖に親しむつどい」行事の一環として開催します。  
 どなたでも参加いただけます。お気軽に申し込みください。

**開催日時**

- ◆開催日 平成19年7月21日(土)  
(平成19年度 森と湖に親しむつどい)
- ◆時間 14:00~16:30  
(受付 13:30~)

**開催場所**

- ◆福井県国際交流会館 多目的ホール  
(福井市安永2丁目1-1 TEL.0776-29-6800)

**出席者**

- ◆ご挨拶
  - 宮上交渉官 岡川龍河知博雄 福井管理官 土屋利弘
- ◆意見交換会  
【EHIに対する思い、交流のあり方】

福井市長	海川 隆
大野市長	徳田英夫
勝山市長	山岸正樹
あわら市長	橋本達也
坂井市長	坂本龍夫
志保町長	尾本文雄
- ◆福井県土木部長 中野正典
- ◆宮上交渉官 岡川龍河知博雄 福井管理官 土屋利弘
- ◆宮上交渉官 近藤地方整備局長 高村孝彦
- ◆コーディネーター  
 福井大学 教授 野崎英二

**主催**  
 九頭竜川「水・交流サミット」実行委員会  
(福井市、大野市、勝山市、あわら市、坂井市、志保町、福井県、宮上交渉官)



**真名川ダム上流域で植樹会を開催しました。**

**植樹会の目的**  
 下流域のNPOや漁業組合等のボランティア参加により、「真名川ダム・九頭竜水源地域ビジョン」の施策である森林の保全・育成や上下流交流の促進を目指した植樹会を行いました。

**植樹会の内容**

- 名 称：『水源地の森づくり』第2回植樹会
- 日 時：平成19年11月17日(土) 9時30分~11時30分
- 主 催：真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会
- 参加団体：NPOドラゴンリバー交流会、九頭竜川中部漁業協同組合、水源地域ビジョン森林部会、林野庁福井森林管理署、大野市、九頭竜ダム統合管理事務所
- 植栽樹種：クスギ、コナラの苗木(20cm程度)、合計約300本  
(苗木はNPOドラゴンリバー交流会から無償提供)
- 植樹場所：・大野市中島(真名川ダム貯水池(麻那姫湖)上流端 中島公園の上流)  
 ・熊河国有林(雲川ダム貯水池上流端 国道157号沿い)

**植樹会の様子**  
 当日は、合計40名の方々のご参加により、植樹を行いました。






水源地域ビジョン森林部会では、今後もこのような植樹活動を支援していきます。

図 7.3-7 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンに係る実施施策の例  
 (左：水・交流サミット、右：植樹会)

出典：資料 7-7



### 7.3.2 地域とダム管理者との関わり

九頭竜ダムでは、地元地域の市町村との関わりとしてダム見学会開催などの様々な活動を実施している(表 7.3-1)。

表 7.3-1 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	
平成15年度	7月26日	九頭竜ダム見学会とパネル展	九頭竜ダム	ダム見学会	219人
	7月26日	長野地下発電所見学会	長野地下発電所	電源開発(株)長野地下発電所見学会	242人
	7月26~27日	自然楽校・九頭竜2003	九頭竜ダム	カヌー体験、溪流フィッシング、炭焼き小屋作り	331人
平成16年度	7月24日	九頭竜ダム見学会とパネル展	九頭竜ダム	ダム見学会	170人
	7月24日	長野地下発電所見学会	長野地下発電所	電源開発(株)長野地下発電所見学会	37人
	7月24~25日	自然楽校・九頭竜2004	九頭竜ダム	カヌー体験、溪流フィッシング、ログハウス講座、ウッドクラフト講座、野外料理	370人
平成17年度	7月24日	九頭竜ダム見学会とパネル展	九頭竜ダム	ダム見学、福井豪雨及びダム効果のパネル展、カヌー(Eボート)	384人
	7月24日	長野地下発電所見学会	長野地下発電所	電源開発(株)長野地下発電所見学会	120人
	7月24日	九頭竜自然楽校2005	九頭竜ダム	カヌー体験	38人
平成18年度	7月23日	九頭竜ダム見学会とパネル展	九頭竜ダム	ダム見学、ダム効果のパネル展	130人
	7月23日	長野地下発電所見学会	長野地下発電所	電源開発(株)長野地下発電所見学会	122人
	7月23日	第1回九頭竜湖カヌーミーティング	九頭竜ダム	カヌー体験	46人
	7月30日	フォーラム開催「水源地域の明日を考える」	多田記念大野有終会館	講演、パネルディスカッション	350人
平成19年度	7月21日	九頭竜川“水・交流サミット”	福井県国際交流会館	流域の連携・協働の促進、河川整備のあり方などについての意見交換	200人
	7月29日	九頭竜ダム見学会とパネル展	九頭竜ダム	ダム見学、ダム効果のパネル展	350人
	7月29日	長野地下発電所見学会	長野地下発電所	電源開発(株)長野地下発電所見学会	200人
	7月29日	九頭竜湖カヌーミーティング2007	九頭竜ダム	カヌー体験	250人
	7月29日	親子カヌー体験バスツアー	九頭竜ダム	カヌー体験、ダム・発電所の見学会	82人

出典：資料 7-7

また、九頭竜ダムでは、ダムの役割を学び、その重要性についての理解を深めるため、ダム本体の内部や操作室などを一般に公開するとともに、見学・学習施設などの整備を行っている。



図 7.3-8 九頭竜ダム見学会の様子

出典：資料 7-8

## 7.4 ダム周辺の状況

### 7.4.1 ダム周辺整備の状況

九頭竜ダムの持つ広大な水と緑を活かして、よりすばらしい環境の創出を図るため、法面整備や緑化対策を進めており、これら利用者の安全対策、河川敷地の適正管理のため、ダム周辺環境整備事業を実施した。各地区の整備状況を表 7.4-1、図 7.4-1 に示す。

その他、九頭竜川ダム統合管理所九頭竜ダム管理支所に展示室が整備されている。また、ダムサイトに位置している旧和泉村を中心に、国民休養地整備事業及び特定山村新興対策パイロット事業により、九頭竜国民休暇地が整備されている。

表 7.4-1 地区別整備状況

地区名	整備テーマ	整備状況
長野地区	PR 広場	・ 駐車場、案内板
野尻地区	展望と活動広場	・ 法面整備、休憩所
下半原地区	観桜広場	・ 散策路、キャンプ場
上半原地区	遊水広場	・ オートキャンプ場

出典：資料 7-9



長野地区

野尻地区



下半原地区

上半原地区

上半原地区

図 7.4-1 九頭竜ダム周辺環境整備事業における各地区の整備状況

出典：資料 7-9

## 7.4.2 ダム周辺施設の利用状況

大野市和泉地区(旧和泉村)における最近10年間の観光入込み客数を図7.4-3に、主要観光施設の入込み客数を表7.4-2に示す。

最近10年間の観光入込み客数は、「恐竜エキスポふくい2000」開催の波及効果があった平成12年の120万人をピークに平成16年まで減少を続けてきた。しかし平成16年以後は横ばいとなっており、平成19年は64万人であった。

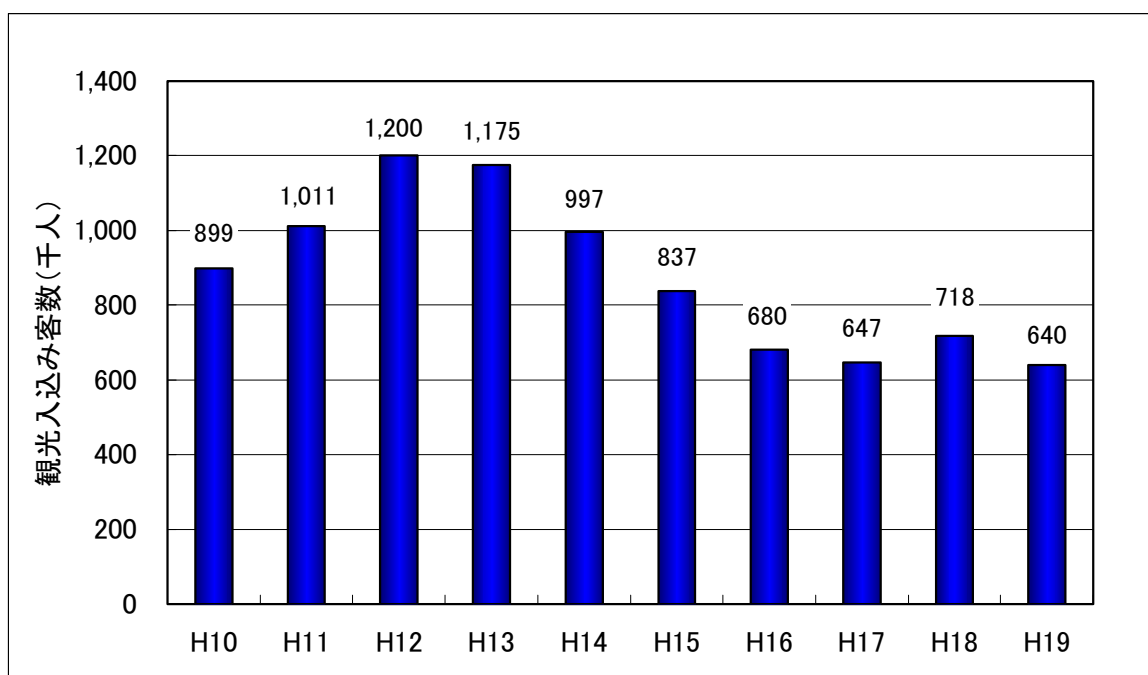


図7.4-3 大野市和泉地区(旧和泉村)における観光入込み客数の推移

出典：資料7-10(※平成19年データは、大野市観光振興課提供データを追加)

表7.4-2 大野市和泉地区(旧和泉村)における主要観光施設の入込み客数

(単位:人)

	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
九頭竜ダム周辺	520,700	643,400	635,400	596,900	419,200	407,300	309,700	291,700	301,300	289,600
九頭竜国民休養地 <sup>※1</sup>	125,000	134,800	118,300	103,200	104,400	108,500	80,600	65,900	105,100	80,300
和泉前坂家族旅行村	11,700	11,100	10,200	6,400	4,700	3,700	3,100	1,700	1,700	2,000
天狗岩ファミリーパーク	2,400	2,400	2,400	1,200	1,200	1,400	900	700	800	900
九頭竜保養の里	119,000	100,100	96,600	136,500	90,600	86,800	72,900	81,300	81,600	84,200
アドベンチャーランド中竜 <sup>※2</sup>	46,300	42,400	42,100	30,200	42,800	34,200	33,300	25,000	36,800	0
福井和泉スキー場	65,600	69,400	68,400	41,200	56,900	41,200	40,200	33,800	22,000	19,700
その他	7,800	7,300	227,000	259,500	277,300	153,800	139,300	146,900	169,200	162,800
<b>入込客数(人)</b>	<b>898,500</b>	<b>1,010,900</b>	<b>1,200,400</b>	<b>1,175,100</b>	<b>997,100</b>	<b>836,900</b>	<b>680,000</b>	<b>647,000</b>	<b>718,500</b>	<b>639,500</b>

※1:入込み客数にスキー客が含まれる

※2:平成18年11月末に閉鎖された

出典：資料7-10(※平成19年データは、大野市観光振興課提供データを追加)

大野市和泉地区(旧和泉村)における近 10 ヶ年(平成 10 年～19 年)の月別入込み客数は、夏休みの 8 月、紅葉シーズンの 10 月～11 月、ゴールデンウィークの 5 月に多く、1 月～4 月、6 月および 12 月が少なかった。

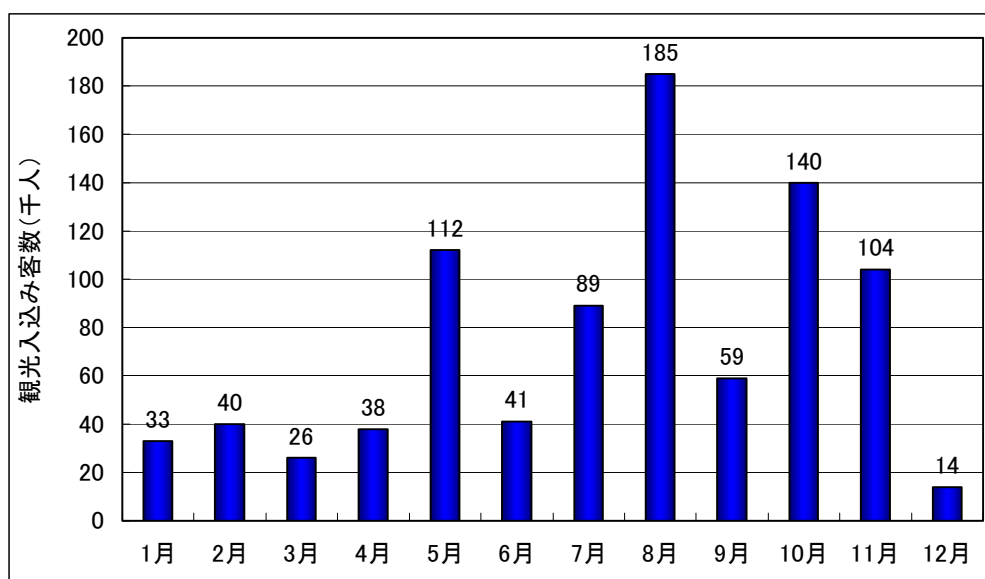


図 7.4-4 大野市和泉地区(旧和泉村)における月別観光入込み客数  
(近 10 ヶ年(平成 10 年～19 年)の平均)

出典：資料 7-10(※平成 19 年データは、大野市観光振興課提供データ)

表 7.4-3 大野市和泉地区(旧和泉村)における月別観光入込み客数

単位: 人

	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	10年平均
1月	41,700	37,200	41,000	33,800	38,100	31,500	35,300	27,200	21,700	21,200	32,870
2月	65,500	61,100	51,500	37,700	44,100	35,900	31,900	27,000	22,500	25,500	40,270
3月	31,100	25,500	28,800	22,500	33,900	26,900	22,500	27,000	15,600	23,100	25,690
4月	41,400	26,900	29,100	51,400	55,800	38,500	32,100	32,300	35,400	38,400	38,130
5月	111,200	153,900	166,400	145,600	130,300	76,400	93,500	83,400	86,400	71,300	111,840
6月	32,400	47,600	46,000	64,000	60,300	27,000	33,100	37,100	33,800	32,800	41,410
7月	91,300	113,600	121,700	114,800	80,200	53,900	54,100	83,700	83,800	91,400	88,850
8月	211,800	222,000	377,300	241,200	192,300	195,700	125,800	97,300	99,000	86,500	184,890
9月	51,800	57,500	75,500	86,700	77,400	46,900	42,200	53,100	50,100	45,200	58,640
10月	136,300	145,800	123,800	170,600	181,800	154,900	109,200	100,100	161,200	113,200	139,690
11月	73,900	100,700	125,800	183,500	84,100	136,200	91,300	68,900	96,100	76,600	103,710
12月	10,100	19,100	13,500	23,300	18,800	13,100	9,000	9,900	12,900	14,300	14,400

出典：資料 7-10(※平成 19 年データは、大野市観光振興課提供データ)

大野市和泉地区(旧和泉村)における入込み客数を県内・県外別にみると、図 7.4-5 に示すとおり、県外からの観光客が全体の約 60~80%を占めている。

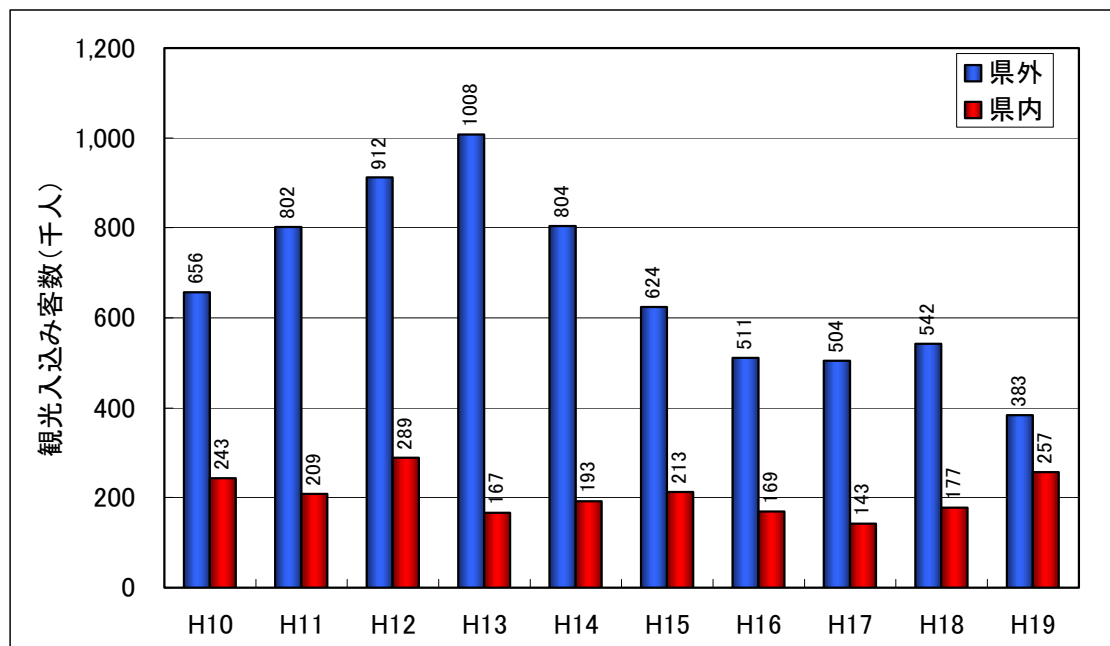


図 7.4-5 大野市和泉地区(旧和泉村)における県内・県外別観光入込み客数の推移  
出典：資料 7-10(※平成 19 年データは、大野市観光振興課提供データを追加)

大野市和泉地区(旧和泉村)における県外からの観光客の発地別内訳を図 7.4-6 に示す。中京地区、関西地区からの観光客の割合が多く、平成 19 年度の内訳は、中京地区が約 40%、関西地区及び北陸地区が約 20%、関東地区及びそのほか約 10%となっている。

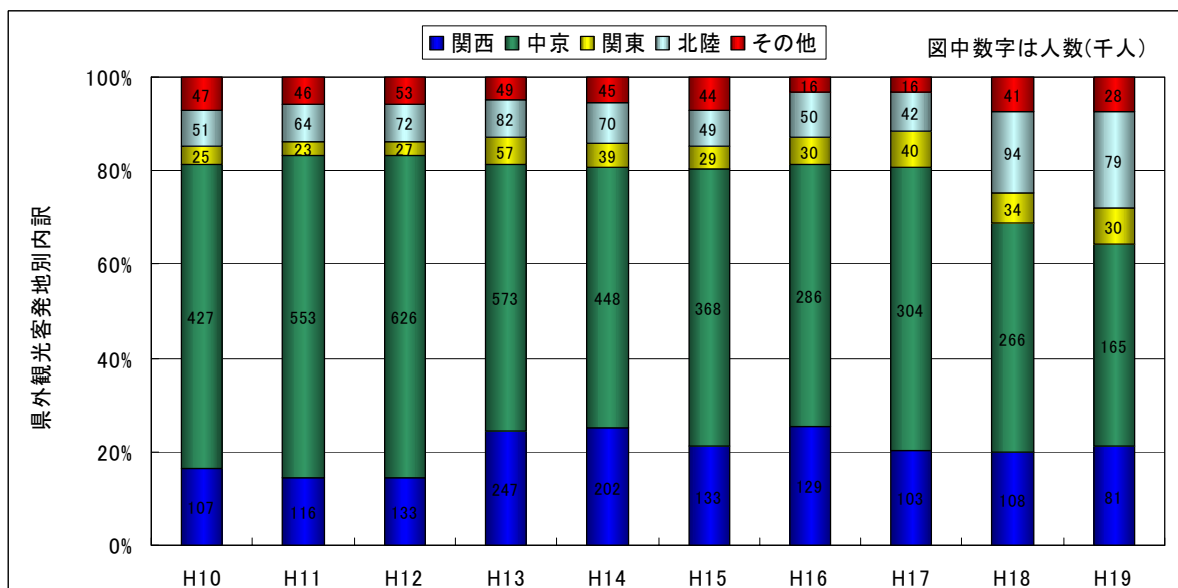


図 7.4-6 大野市和泉地区(旧和泉村)における県外からの観光客の発地別内訳  
出典：資料 7-10(※平成 19 年データは、大野市観光振興課提供データを追加)



### 7.4.3 ダム及びダム周辺のイベント等の開催状況

#### (1) 森と湖に親しむ旬間行事

九頭竜ダムでは、「森と湖に親しむ旬間」の行事の一環として、平成 19 年度の場合は、1)九頭竜湖カヌーミーティング、2) 親子水源地見学バスツアー、3) 九頭竜ダム見学、4) 九頭竜川”水・交流サミット”が開催され、合計 570 人の来場者があった。



図 7.4-7 平成 19 年度森と湖に親しむ旬間行事のチラシ

出典：資料 7-7



図 7.4-8 森と緑に親しむ旬間の実施状況  
(左：九頭竜湖カヌーミーティング、右：九頭竜ダム見学)

出典：資料 7-7

## 7.5 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

ダム湖利用実態調査は、「河川水辺の国勢調査（ダム湖版）（国土交通省河川局河川環境課）」により、平成3年度から3年ごとに実施しており、四季を通じた休日5日、平日2日の合計7日の現地調査（利用者アンケート調査：直接ヒアリング、利用者カウント調査）を実施し、年間利用者数の推定を行うものである。

九頭竜ダムにおけるダム湖利用実態調査のブロック区分施設位置図を図7.5-1に示す。九頭竜ダムでは2つのブロックに区分して調査を実施している。



図 7.5-1 ブロック区分施設位置図

出典：資料 7-11

年間のダム湖利用者数については、季節、休日と平日の違いを考慮し、各季節の休日、土曜日、平日の利用者数（実測値を基本とする）を原単位とし、それに各季節の休日・土曜日・平日の日数を乗じた推計値にイベント調査結果を加えることにより推計を行った。

①各季節の期間、休日・平日の日数は以下のとおりの区分とした。

春季：3/1～5/31（休日 16 日、土曜日 11 日、平日 65 日）

夏季：6/1～8/31（休日 15 日、土曜日 13 日、平日 64 日）

秋季：9/1～11/30（休日 18 日、土曜日 13 日、平日 61 日）

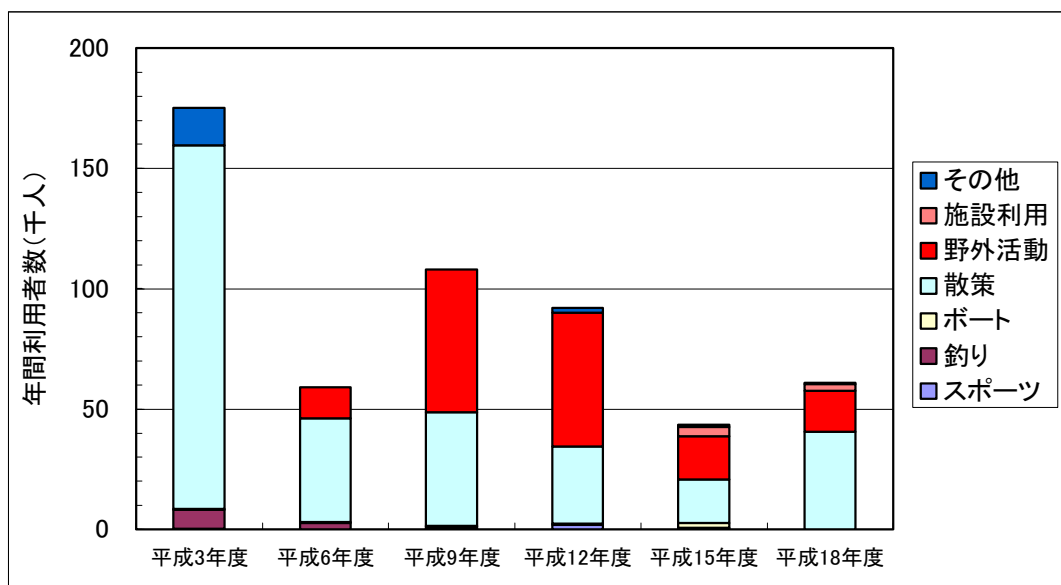
冬季：12/1～2/29（休日 17 日、土曜日 13 日、平日 61 日）

②各季節の土曜日および秋季・冬期の平日については実測値がないため、平成4年度に行った補足調査結果より得られた全国平均の比率（土曜日＝0.37×休日、平日＝0.18×休日）を乗じることにより、原単位を求めた。

平成18年度の年間利用者数は約6万1千人と推計された。

利用形態状況の年間推計値によると、九頭竜ダム湖および周辺を利用する目的は「散策」、  
「野外活動」が大部分を占めており、アウトドア的な利用が中心であることがわかる。

なお、平成3年度の調査の来場目的の設問は、「スポーツ」、「釣り」、「ボート」、「散策」および「その他」であったが、平成6年度の調査以降は、設問に「野外活動」と「施設利用」を追加している。



(単位: 千人)

利用場所	平成3年度	平成6年度	平成9年度	平成12年度	平成15年度	平成18年度
湖面	20.0 (11.4%)	3.0 (5.0%)	1.3 (1.2%)	2.3 (2.5%)	2.6 (6.0%)	<0.1 (0.1%)
湖畔	58.7 (33.5%)	21.3 (36.1%)	62.5 (57.9%)	58.1 (63.3%)	19.8 (45.6%)	33.3 (54.7%)
ダム	96.4 (55.1%)	34.7 (58.9%)	44.1 (40.8%)	31.4 (34.2%)	21.0 (48.4%)	27.5 (45.2%)
合計	175.0	59.0	107.9	91.8	43.4	60.8

図 7.5-2 ダム湖および周辺の利用状況

出典：資料 7-12

平成 18 年度のアンケート調査結果によると、九頭竜ダム及びその周辺施設への来訪者は、福井県内からが約 1/3 を占め、県外からは愛知県、石川県、岐阜県などが多かった。

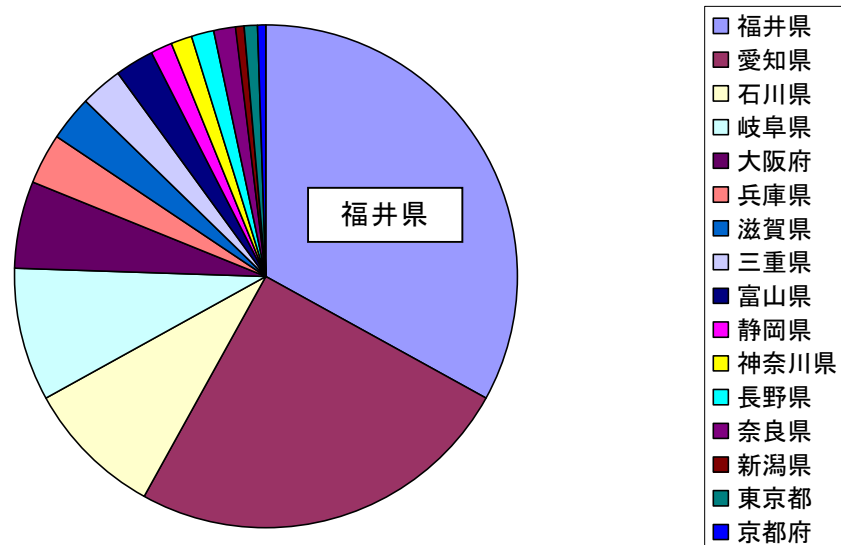


図 7.5-3 九頭竜ダム及び周辺施設への来訪者の発地調査結果

出典：資料 7-11

また、来訪者への満足度調査結果から、「満足している」、「まあ満足している」と回答した人は、合計約 80%であった。

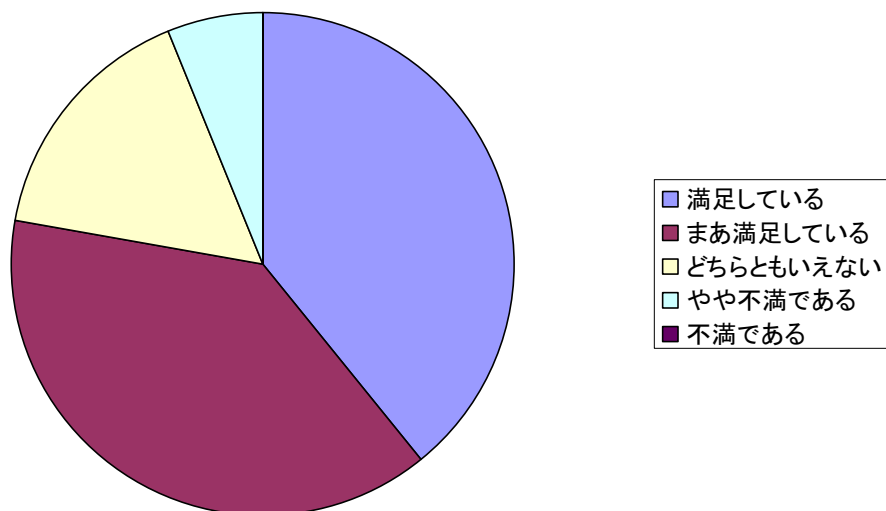


図 7.5-4 九頭竜ダム及び周辺施設へ来訪者の満足度調査結果

出典：資料 7-11

## 7.6 まとめ

ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図るため、平成16年3月に「真名川ダム水源地域ビジョン」、平成17年11月に「九頭竜ダム水源地域ビジョン」を策定した。さらに平成18年2月には、旧大野市、旧和泉村が合併し大野市となったことに伴い、両ビジョンを一体的に推進する「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会」を設立し、施策の推進を図っている。

平成19年度におけるダム湖周辺のイベントとしては、「森と湖に親しむ旬間」の行事の一環として1)九頭竜湖カヌーミーティング、2)親子水源地見学バスツアー、3)九頭竜ダム見学、4)九頭竜川”水・交流サミット”が開催され、多くの来場者があり、受益地域と水源地域の交流や地域コミュニティの向上に努めている。

### <今後の方針>

今後も引き続き、水源地域の活性化が図れるよう、積極的に地域と関わり水源地域ビジョンを推進していく。

また、受益地域と水源地域の交流や地域コミュニティの向上に努めていく。

## 7.7 文献リスト

表 7.7-1 使用した文献・資料リスト

No.	報告書またはデータ名	発行者	発行年月日	箇所
7-1	大野市ホームページ	大野市	平成 21 年 1 月現在	ダムの立地条件 観光イベント
7-2	国勢調査（人口・世帯）	（財）統計情報研究開発センター	昭和 40 年～平成 17 年	人口・世帯数
7-3	事業所統計調査報告	総務庁統計局	昭和 44 年～平成 13 年	事業所数
7-4	福井県統計年鑑	福井県	昭和 40 年～平成 17 年	就業者人口
7-5	（社）大野市観光協会ホームページ	（社）大野市観光協会	平成 21 年 1 月現在	観光イベント
7-6	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン	九頭竜川ダム統合管理事務所	平成 18 年 3 月	水源地域ビジョン
7-7	九頭竜川ダム統合管理事務所	九頭竜川ダム統合管理事務所	－	地域とダム管理者との関わり ダム及びダム周辺のイベント
7-8	平成 20 年度事業概要	九頭竜川ダム統合管理事務所	平成 20 年 4 月	地域とダム管理者との関わり
7-9	九頭竜川流域誌	九頭竜川水系治水百周年記念事業実行委員会	平成 12 年 10 月	ダム周辺環境整備事業
7-10	越前おおの観光戦略プラン～もてなしの心で「喜び」と「満足」と「感動」を	大野市	平成 19 年 3 月	ダム周辺施設の利用状況（※平成 19 年データは、大野市観光振興課提供データを追加）
7-11	九頭竜ダム ダム湖利用実態調査結果	九頭竜川ダム統合管理事務所	平成 18 年	ダム湖利用実態調査
7-12	平成 18 年度河川水辺の国勢調査〔ダム湖版〕（ダム湖利用実態調査編）	国土交通省河川局河川環境課	平成 20 年 3 月	ダム湖利用実態調査